

きょうの紙面

経	済	6、22面
こ	だ	7面
く	ま、小	8、9面
文	ら	11面
ス	ポ	14、15面
地	域	17~19面
基	将	21面
商	況	12、13面
テレビ	ラジオ	20、21面



表情そっくり  
手製ブローチ  
25面

クリスマスの贈り物

コロナ禍で迎えるクリスマスをもっと心温まるものにしてもらおうと、福岡市の中学生やNPO法人が贈り物を考案した。きょうはクリスマスイブー。 ▶24面



コロナ禍の人間模様

2020年が暮れゆく。未知の感染症のまん延を誰が想像しただろうか。それでも自分らしく、また懸命に今を生きる人々の姿を「コロナ わたし今物語」で描きます。▶25面

心はそばに 聖夜の贈り物

コロナ禍のクリスマス、少しでも温かい気持ちで過ごせますように。路上生活者や長期入院している子どもたちに思いがけないプレゼントが届いている。手作りクッキーだったり、音楽だったり。福岡市の中学生やNPO法人が「サンタクロースになった。路上生活者を巡回訪問する福岡市の「福岡おにぎりの会」に155人分のクッキーが届いたのは今月17日。送り主は同市の西南学院中の郷土史部だ。生徒13人が学校の家庭科室

路上生活者や入院中の子に

でハートや星形のクッキーを作った。「クリスマスの喜びが伝わったらいいな」。聖書から引用したメッセージのカードも添えた。2006年から続けている。新型コロナウイルスの流行で取りやめとなる活動が多い中、「できるならやりたい」と生徒が顧問の副田彩音教諭(48)に伝えた。おにぎりの会は今年最後の巡回となる25日、路上生活者らに手渡す。会の原山映子さん(77)は「皆さんが込めてくれた気持ちも届きたい」と顔をほころばせた。



西南学院中から届いたクッキーを手に笑顔を見せる「福岡おにぎりの会」の原山映子さん

☆ ☆  
♪きくよしくこの夜♪

動画投稿サイト「ユーチューブ」から伸びやかな声が流れる。背景には手作りのツリー。入院中の子どもたちを励ますべく、福岡市のNPO法人「OnPair(オンパル)」が演

奏、収録した。福岡県内外の病院でしてきたコンサートや院内学級の音楽の授業が今春以降はできていない。そこで真隣潔理事長(67)が「退屈している子どもたちが笑顔になれば」と企画。「OnPairクリスマスコンサート」のタイトルで9日から公開している。

「久しぶりに楽器の音が聞けて楽しかった」「できれば生演奏を聞きたいな」。動画を見た子どもたちや関係者からお礼のメールが届く。年が明けたら新たな動画にも取り組む予定という。真隣さんは「生演奏を一日でも早く届けたい」と願う。

(小林稔子)